

まえがき

本資料は、平成 17 年度～平成 18 年度の 2 年間を実施期間とする行政対応特別研究「多国間・二国間農業交渉の戦略的対応に資するための国際農業・農政動向の分析」の研究成果の一部である。

周知の通り、現在、世界農産物貿易市場では南米諸国の存在感が急激に高まっている。一例をあげると、2005 年の農産物貿易純輸出金額（輸出金額－輸入金額）をみるとブラジルが世界 1 位、アルゼンチンが 3 位になっている。個別品目をみても、南米産大豆の生産量は既に米国を上回っており、食肉の輸出拡大も著しい。その中でも、ブラジルは耕地の拡大可能性が最もある国と見なされており、多くの食料を輸入に頼っているわが国にとって非常に重要な国である。

第 1 章は、そのブラジル農業の概要と農業政策をマクロ経済との関連で解説したものである。

第 2 章は、バイオエタノールへの需要増大の関連で最近急激に注目を浴び始めたブラジルの砂糖供給力に関する分析である。

第 3 章は、平成 17 年 9 月 16 日に本研究の一環として上智大学の堀坂浩太郎教授にご講演いただいた内容を速記録にまとめたものである。堀坂先生のご講演内容は農業に限らず、ブラジルの多様な可能性について、歴史的、地理的およびグローバルな視点からの分析であり、第 1 章および第 2 章の背景を理解するのに大変有益なものとなっている。しかしながら、諸般の事情により、堀坂先生の講演から本資料の発行まで 1 年以上を経過してしまい、先生には大変なご迷惑をおかけした。ここに、深くお詫び申し上げる次第である。

第 4 章は、同様にこの研究プロジェクトの一環として、平成 17 年 11 月 16 日「チリの FTA 戦略」の題で講演をお願いしたアルベルト・ヴァルデス氏（元世界銀行上級経済顧問）にチリの農業政策に関する氏の論文を翻訳する許可を得て、掲載したものである。チリは南米南部共同市場の準加盟国ではあるが、加盟国とは一線を画した経済運営を行っている。その意味で本論文は貴重な資料である。ヴァルデス氏のご厚意に深く感謝申し上げます。

最後に、本資料が今後の世界食料需給の動向を占ううえで重要な、南米農業の理解の一助となれば幸いである。

平成 19 年 3 月

農林水産政策研究所
南米・オセアニアチーム